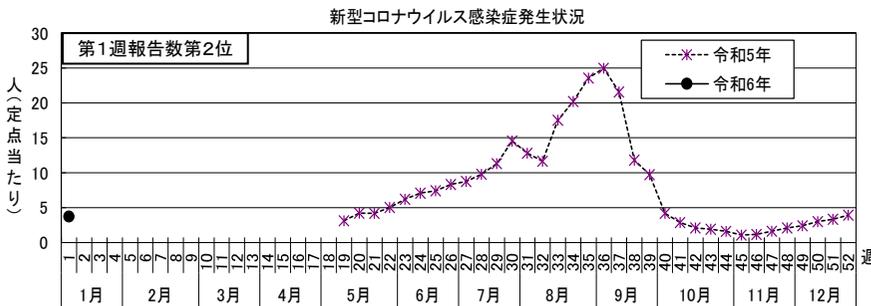
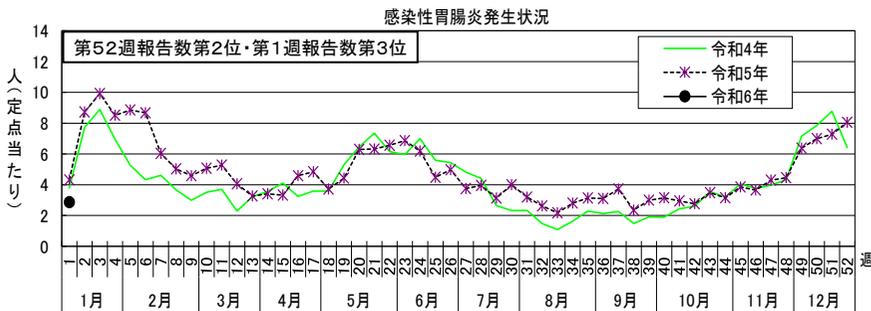
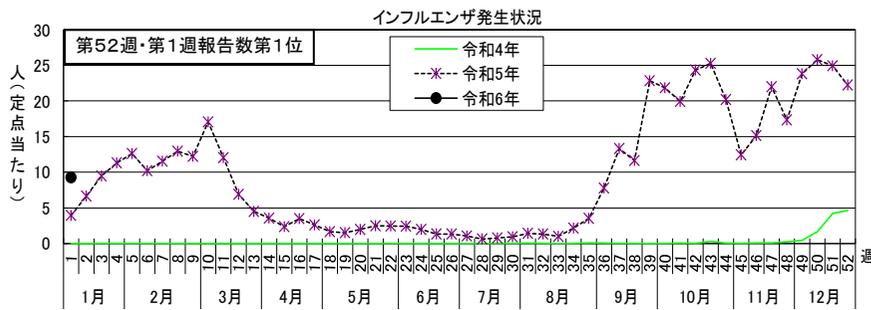


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年12月25日（月）～12月31日（日）〔令和5年第52週〕及び令和6年1月1日（月）～1月7日（日）〔令和6年第1週〕の感染症発生状況
 令和5年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 令和6年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 令和5年第52週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は22.23人と前週（24.95人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 令和6年第1週は、年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



帰国後の体調変化に注意しましょう！

年末年始を海外で過ごされた方も多いかと思えます。帰国後に消化器症状や発熱、発しん等の体調不良を訴える方は比較的多く、自然に回復する場合がありますが、中には思わぬ感染症が潜んでいる可能性もあります。体調がすぐれない場合は早めに医療機関を受診しましょう。また、早期に診断を確定し適切な治療を開始するために、受診の際には症状だけでなく渡航先や渡航期間、渡航中の行動等を医療機関にお伝えください。

帰国後の健康チェックのポイント 例：デング熱



- ①渡航先、渡航期間等
 渡航先の流行状況や、渡航期間と潜伏期間から、特定の感染症を疑うことができるため、重要な情報となります。
- ②渡航中の行動
 生の水や加熱していない食物の飲食、虫さされ、動物との接触、性行為等は、診断の際に有用な情報となります。
- ③発症日
 発症日と潜伏期間を併せて考えることで、渡航先での感染であるかを、明確にすることができます。
- ④症状
 発熱や下痢の他、発しんや黄疸（白目が黄色くなる）、意識障害等の症状が現れる感染症もあります。